

マタイの福音書 18 章 1-7 節

「イエス様の美しさ」

18:1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」

18:2 そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて、

18:3 言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。

18:4 だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。

18:5 また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。

18:6 しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

18:7 つまずきを与えるこの世はわざわいだ。つまずきが起こるのは避けられないが、つまずきをもたらす者はわざわいだ。

## はじめに

皆さんおはようございます。今日、皆さんと神様の御言葉を分かち合う事が出来る事をとて光栄に思います。聖書を通してイエス様の人格の美しさを一緒に見て行きたいです。その主な特徴は謙遜と優しさ（柔和）と、すべての人を平等に大切にすることです。

私の生まれ育った近所は、男は絶対に謙遜や柔和と呼ばれたくないという所でした。男らしさとか、男としての間違ったプライドが高くて、男として認められる第一条件は喧嘩が強くなることでした。豪華客船タイタニック号の作られた港町ベルファストの周辺はかなり柄の悪い所でした。残念ながら、私はクリスチャンになってからも、謙遜と柔和の点でイエス様のようにになりたいとは思いませんでした。それが周囲の男性から弱さとして見られてしまうからです。幸い、イエス様の謙遜と柔和を正しく知れば知る程、増々完全にイエス様と同じように変えられたいと思うようになりました。今日、皆さんもイエス様の美しさを見る事によって、増々イエス様と同じように変えられたいと思って頂けたら幸いです。それが私達の救われた最大の目的です。イエス様の救いは天国に行けるチケットだけではなくて、「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。…」（ローマ 8:29）なぜならと言うのは前の 28 節の約束と直接つながっている意味ですね。すべてを働かせて益として下さる理由は、イエス様と同じ美しい人格を私達の中で作る為です。

### 1. イエス様の謙遜の美しさ。

1 節「そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。『それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。』」

この箇所ではまず人間の傲慢の典型的な姿が表れています。イエス様の謙遜と全く違う弟子達の傲慢な姿が見られます。神様の目から見て私達人間の醜い姿です。私達の傲慢こそ、一番イエス様の

美しさを隠してしまうものです。その上に他の人を見下して、差別してしまいます。人間の傲慢の姿ほど神様の嫌われるものは他にありません。弟子達のこの議論はイエス様の最後の晩餐までずっと続きました。人間の傲慢がどれほど深く根強いものかが分かります。

第一ペテロ 5:5. ペテロは大変な辛い体験を通してこの事を学びました。「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。」その続きには素晴らしい神さまの約束があります。「神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。」これが神様の御国の霊的な法則です。上がる前に下がらなければならない事です。その最大の手本を見せて下さったのはイエス様です。

ピリピ人への手紙 2:6-9。「キリストは、…人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。 2:9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。」

すべてのクリスチャンはこの箇所 5-11 節までを出来るだけ暗記すべきです。この箇所には、ペテロの手紙で見た霊的法則の最大の実例が書いてあります。クリスチャンになる為にも、クリスチャンになってからも、一生涯ずっと神様に近づく第一歩は、へりくだる事です。

3 節「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。」

イエス様は元々天国で神様と共におられただけではなくて、万物の造り主だったのに、小さい赤ちゃんとしてこの世に生まれて来られました。全能の力を持っておられたのに、一番無防備な何の力もない赤ちゃんになって下さいました。傲慢の罪を悔い改めて子供のようにになるとは、神様に受け入れられる為自力では何もできないと素直に認める必要があるということだと私たちに教えてくれます。

ルカの福音書 18:9. イエス様の有名なたとえ話の一つ。「18:9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。」ここで人間の傲慢と高ぶった態度を神様が嫌われるもうひとつの理由を見る事が出来ます。それはイエス様の美しさを隠してしまう上に、更に他の人々を見下して差別を起こすからです。

簡単にそのたとえ話をまとめて言いますと、二人の全然違う人生を歩んだ人が祈っていました。一人は宗教の指導者で、人目には立派な人間に見える人でした。もう一人はその当時、他の人々に嫌われて人間のくずと言われていた取税人でした。最初に自分が立派な人間と思っていた宗教の指導者が祈って自分はどれ程素晴らしい事をして来たかを述べて最後に自分はあの取税人のような人間ではない事を感謝して終わりました。それから、取税人は祈りました。13 節「…目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』」神様に認められて全ての罪を赦され、神様に受け入れられたのは、へりくだって罪を悔い改めた取税人です。

## 2. イエス様の優しさの美しさ。

マタイ 12:19-20. 彼は「争うこともなく、叫ぶこともせず、大路上でその声を聞く者もない。

12:20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、くすぶる燈心を消すこともない、公義を勝利に導くまでは。」

この箇所は旧約聖書のイザヤ書 42:3 から、引用しています。イエス様が生まれる約 700 年前、神様は約束の救い主はどんな人格を持つ人になるかを説明しています。つまり、イエス様自身のご自身の人格を説明する時も、父なる神様のご自分の独り子の人格を説明される時も、特徴として優しさを強調しています。

イエス様の優しさはどんなに傷を付いている人でも、大切に、守って強めて育てる優しさです。どんなに信仰が弱くてちょっとした風が吹いたら、消えてしまいそうな信仰を持っている人でも、イエス様はその信仰を守ってそしてその信仰を強めて育てて、完成させる救い主です。ヘブル人の手紙 12:2 には「信仰の創始者であり完成者である」と書いてあります。

人間の社会では見下されてしまうような人々、また人間の社会で見捨てられるような人々を受け入れるだけではなくて、そのような人々を尊い存在として守って下さいます。

マタイ 5:3-5. 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。 5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。 5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」

ここで柔和と訳されている言葉はイエス様が自分について語られたときに使ったのと同じ言葉です。人類の歴史は、最初から今まで争いと戦争を繰り返して来た歴史です。私の生まれ育った国も紛争地として知られています。私は 15 歳の時から、紛争に巻き込まれて参加していました。その為に 18 歳から政治犯として刑務所に入れられましたが、20 歳の時にその刑務所の中でイエス様を受け入れて初めて本当の平和を体験し、平和を作る神様の子供として新しく生まれました。

紛争の経験から学んだ事の一つは、人間は大義名分の名のもとに争い殺し合って来ましたが、紛争や戦争の本質はただの縄張り争いに過ぎません。土地や領土の為に人間は争いと戦争を繰り返していますが、大義名分でそれを隠そうとします。しかし、どの戦争も、またどの紛争も、必ず領土と土地と繋がりがあります。イエス様の教えは正反対です。「柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。」神様は最終的に柔和で争わない人達に地を与えて下さいます。この世の考え方や価値観の正反対です。

マタイの福音書 5-7 章の部分は山上の垂訓とよばれているイエス様の一番有名な説教ですが、イエス様だけがその教えを完全に実行できました。その教えはイエスの美しさをはっきり見せています。山上の垂訓の中心的な教えは分け隔てのない完全な愛です。イエス様だけ完全に実行しましたが、謙遜と柔和と平等から、始まるのです。イエス様はすべての信者の中に住む事によって、完全な愛を与え、私達の中でもそれが実現するように私達の心の中を作り変えて下さいます。

### 3. イエス様の平等の美しさ。

V4. 「だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。」

イエス様はこの話によって弟子達の傲慢な考え方や価値観を認めている訳ではありません。逆に、一番小さい人は一番大きい人と同じように尊い存在だと教えています。神様の御国では皆が全く同じ尊い存在ですが、役目や賜物や使命はそれぞれ違います。だからと言って、使徒パウロが言ったように、体の各部分と同じで、それぞれ役目が違うため、他の部分はいらないとは言えないし、あなたは私ほど大切ではないと言えません。イエス様は皆が平等だと更に強く強調していました。

5-6 節「また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。」そして 6 節には、びっくりするほど厳しい言葉で更に強調しています。

「しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい

石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。」というのは、イエス様にとってもっとも小さい一人一人が尊い存在だからです。それだけではなく、父なる神様にとっても一人一人が同じように尊い存在だと言い続けます。

10 節「あなたがたは、この小さい者たちを、ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。」一人一人が父なる神様とイエス様にとってどれほど大切な存在かは、これ以上に説明出来ません。すべての人を全く平等にするイエス様の美しさです。

こんなに繰り返して強調しているのに、その次一番分りやすい例え話が付け加えられています。

12-14 節. 100 匹の羊の中の一匹だけでも迷ってしまったら、99 匹を置いて迷った一匹を見付けるまで探し続けます。だから、99 匹が無事であっても一匹を犠牲にしません。この世の価値観や考え方と完全に違います。集団や組織や国家を守る為なら、一人を犠牲にしても当たり前という考え方です。

その当時の国の権威を持っている人がイエス様を殺す決定を出した時に言ったように、ヨハネ 11:50. 「ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が減びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」これは 2000 年経った今も変わらぬこの世の考え方です。イエス様の私達に対する価値観と考え方はこの世の常識を完全にくつがえします。分け隔てのない完全な愛です。誰でも、イエス様の人格の美しさを知れば知る程、もっと深く愛するようになります。

## まとめ

聖書全体の中でイエス様が一番喜びに溢れて感謝の祈りをささげた箇所です。

ルカ 10:20-21「だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」 10:21 ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。」

イエス様が何よりも喜んでしたのは、神様が人間の傲慢をとおしてではなく、幼子のようにへりくだって御心に従った弟子達を通して働かれたことです。どんなに力や権威が手に入ったても、それを喜んではいけないのは、それが必ず傲慢につながるからです。天の御国に自分の名前が書き記されている事は、自分の力で出来る事ではないし、どんなに小さいイエス様の信者でも、全く同じですから、傲慢になる可能性はありません。